

Gōkan: (No. 937)  
Shimpen Asahi Monogatari.  
Book 1--6.

新編朝日譚第二輯目錄

土岐頼藝途中に遭害す

雑仕久方のり竹斎久方と連て故郷小帰る

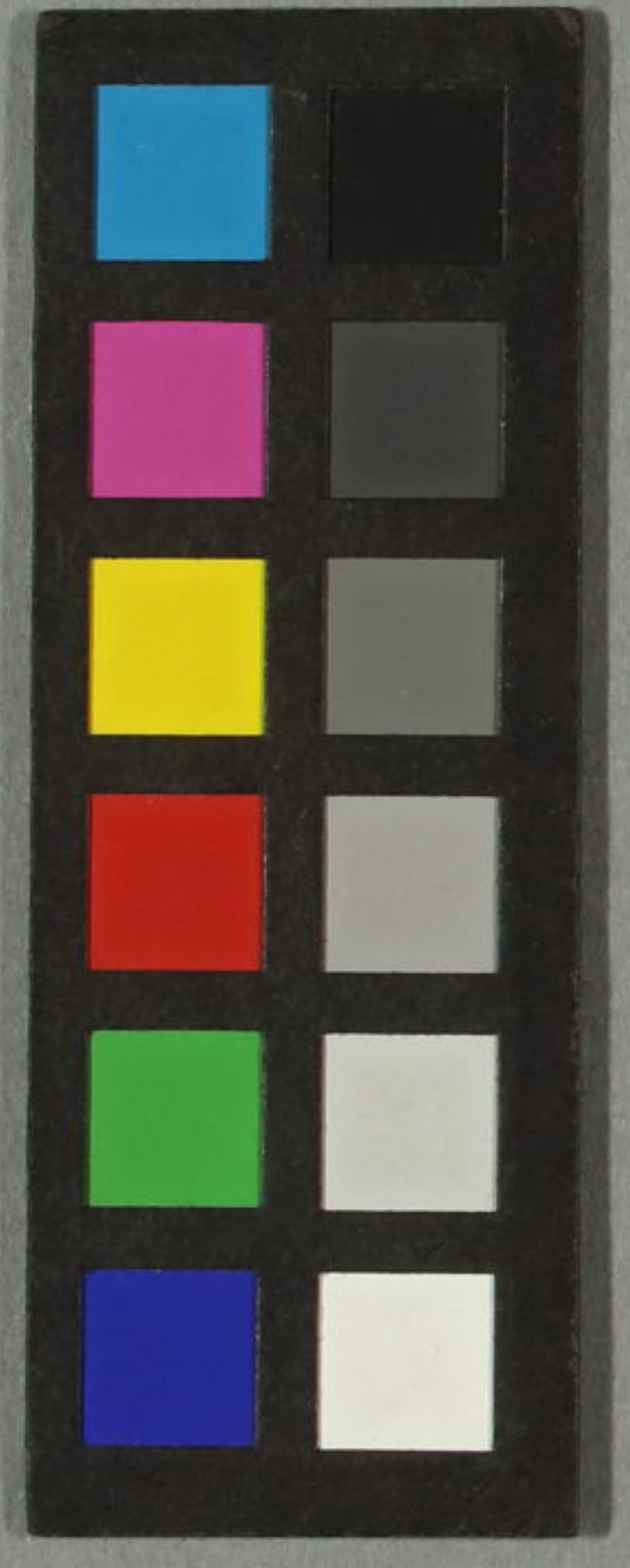
朝日丸延生并生立之事

徳田春永元服并三州大濱江初陣之り

已上

錦重堂壽梓

へ13  
3665  
2



新編  
 何物  
 物語



上重梓

一編下

二編上



鐘考述

与  
 畫

門へ13  
號3665  
卷2

文久三亥の春

新目

譚

二輯

下

名祿彦述

芳貴画

人形町通

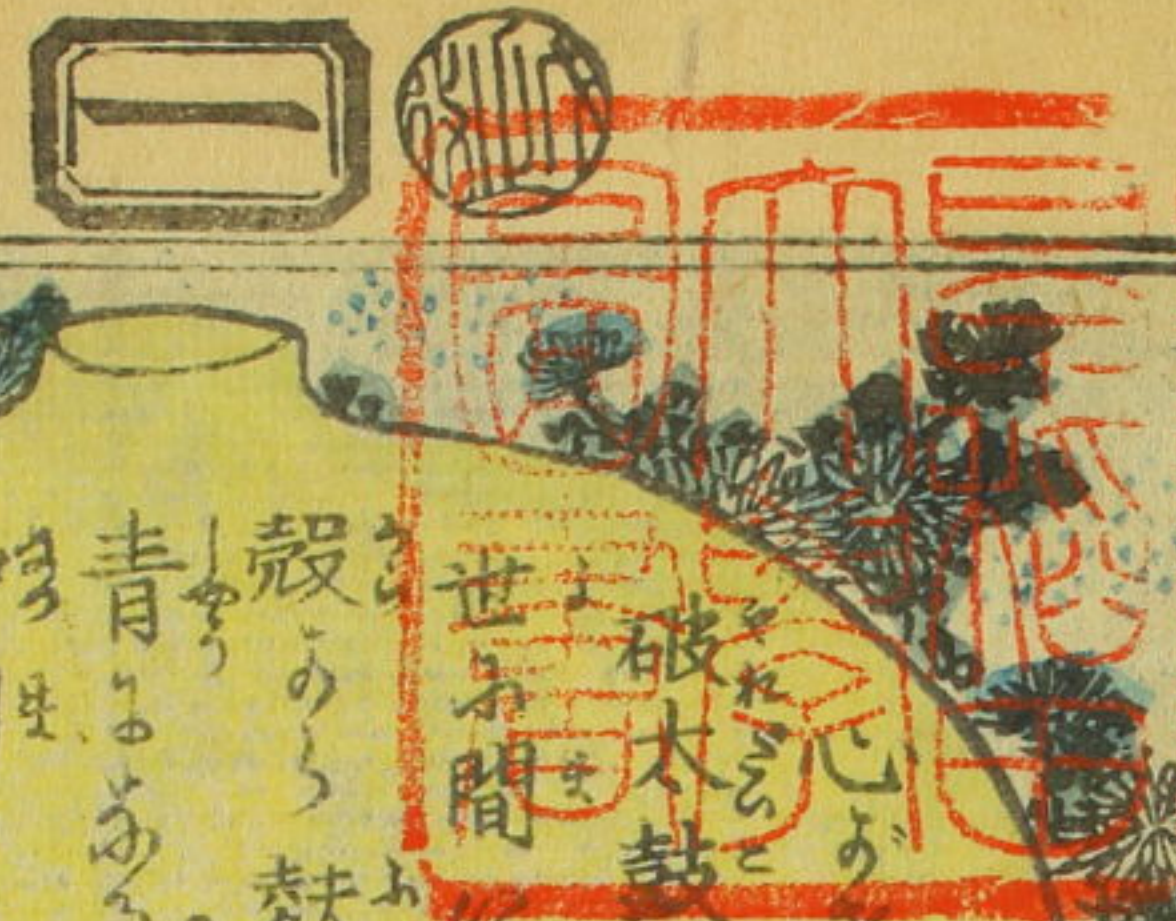
上重板

近き...  
賣茶の名に酷似する

三野の産物

ちりめん  
だんごん

芳貴画



よき良盟者の牛渡馬勃  
 破太鼓の皮を貯置とよむ  
 世間合ねののれし小麥の  
 殻の殻が出来さ銅の鋪が緑  
 青もある煙管の首が孔兄乃  
 仲間と知り碎の玻璃筭がササ  
 目鏡の種とあると泣男の敵軍  
 を欺の疑着の相ある女の血入鹿と  
 己が薬とある可有りよ

其用...  
 實や恵子が五石入の大瓠  
 其用...  
 意江...  
 意味あり唯世無益なるのと  
 謂面白く可咲く好萃元  
 實ある拙著あれどいよち空  
 痛癢...  
 催...  
 文久三亥春

柳亭種彦

明日二編



琴中繡像  
芳幾筆

大家稻川  
駿河の  
道記  
應の海  
話真  
云と一帰  
子孫  
ある



有度濱の稻川大夫  
といふ者あり天女の  
松蔭に舞奏てお  
るをえんを竊め  
学て書ふをえんつ  
天女の鞍馬さか  
翅り雲の隈  
遺の假面の  
拾ひ



三ノ山にありて  
せいの  
ひまの  
のまの  
ひまの  
のまの

十八郡の  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた



三ノ山にありて  
せいの  
ひまの  
のまの  
ひまの  
のまの

十八郡の  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた





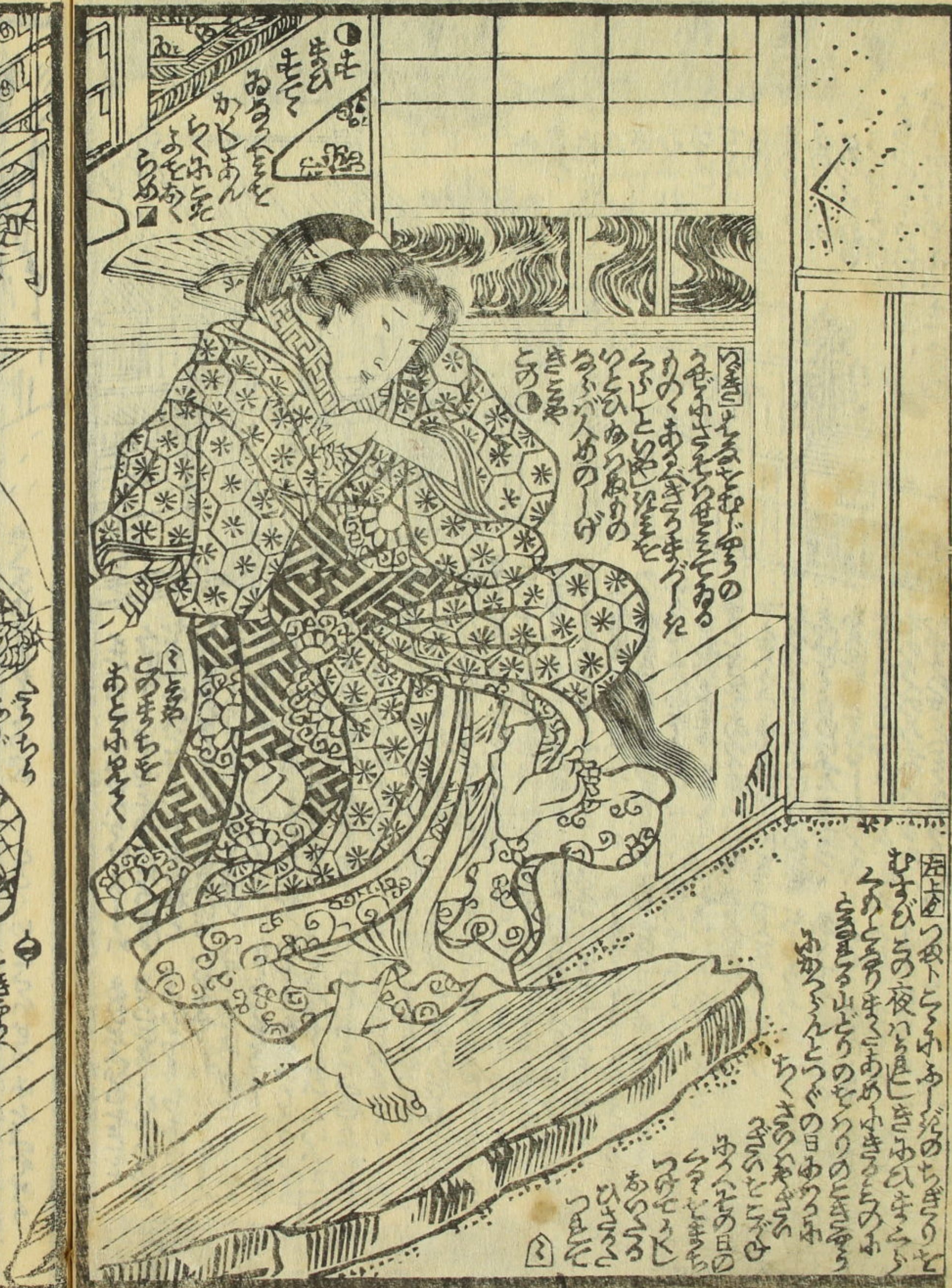












因縁の末に下らぬかあしに浴のちけりのと  
むすびの夜のしにしにゆふのしに  
くのしにしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに

ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに

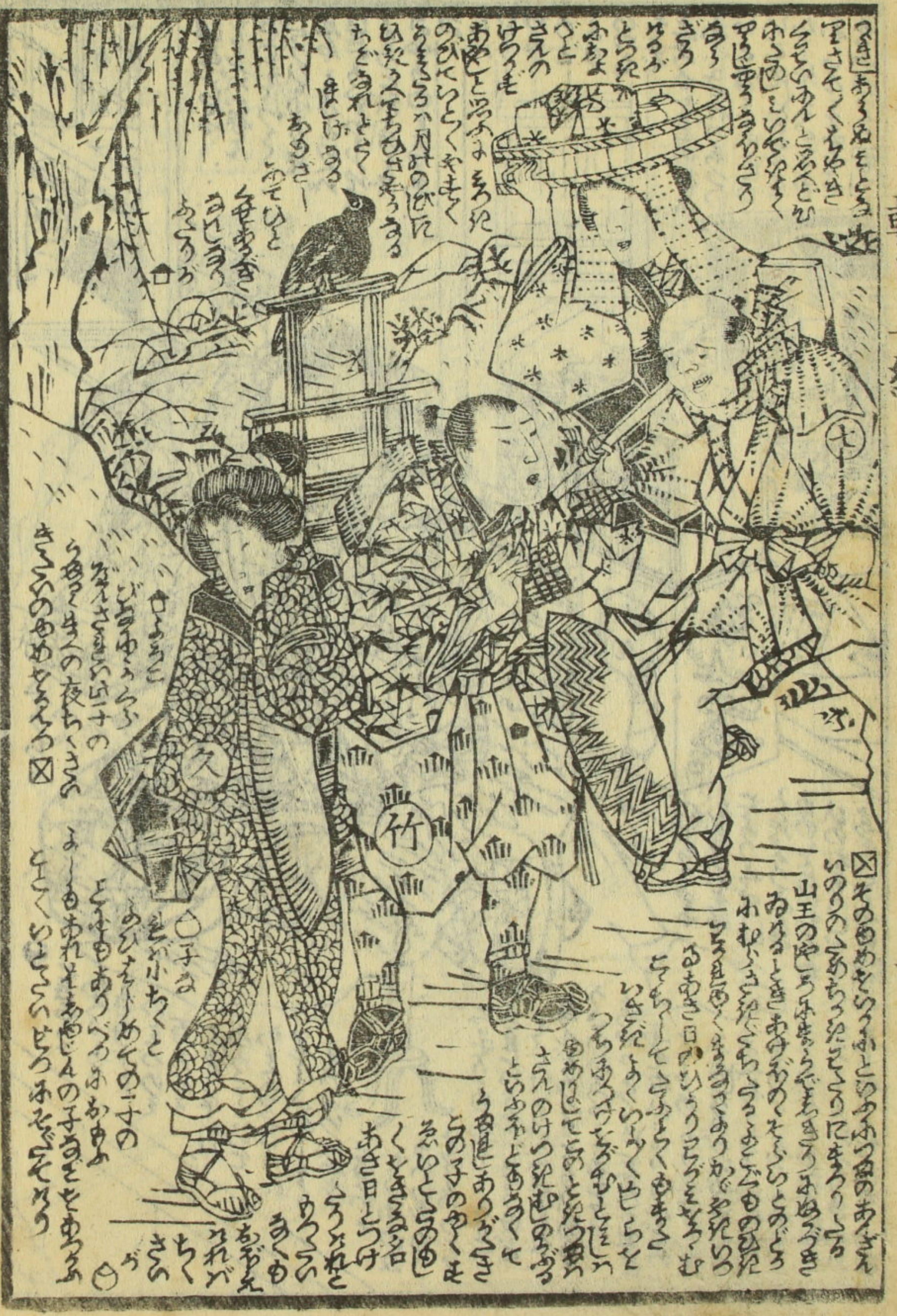
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに



ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに

ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに

ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに  
ゆふのしにゆふのしにゆふのしに



ひとりむすめむこをもちあへぬつてすまろく  
**獨娘聲八人出世双六**  
 當年新板五枚面白き双六

大錦 六枚継  
 万享應賀作  
 一陽春豊國画  
 怪と狂齋画

かくやすびろく  
**樂屋壽古六**  
 三芝居後  
 若このころ  
 化粧の湯  
 五枚面白  
 き双六

美の若きすころく  
**子持お茶双六**  
 同作  
 自房画

男女やくぐすびろく  
**役替壽語六**  
 同作  
 振分 極あつしう紀ききりれあり

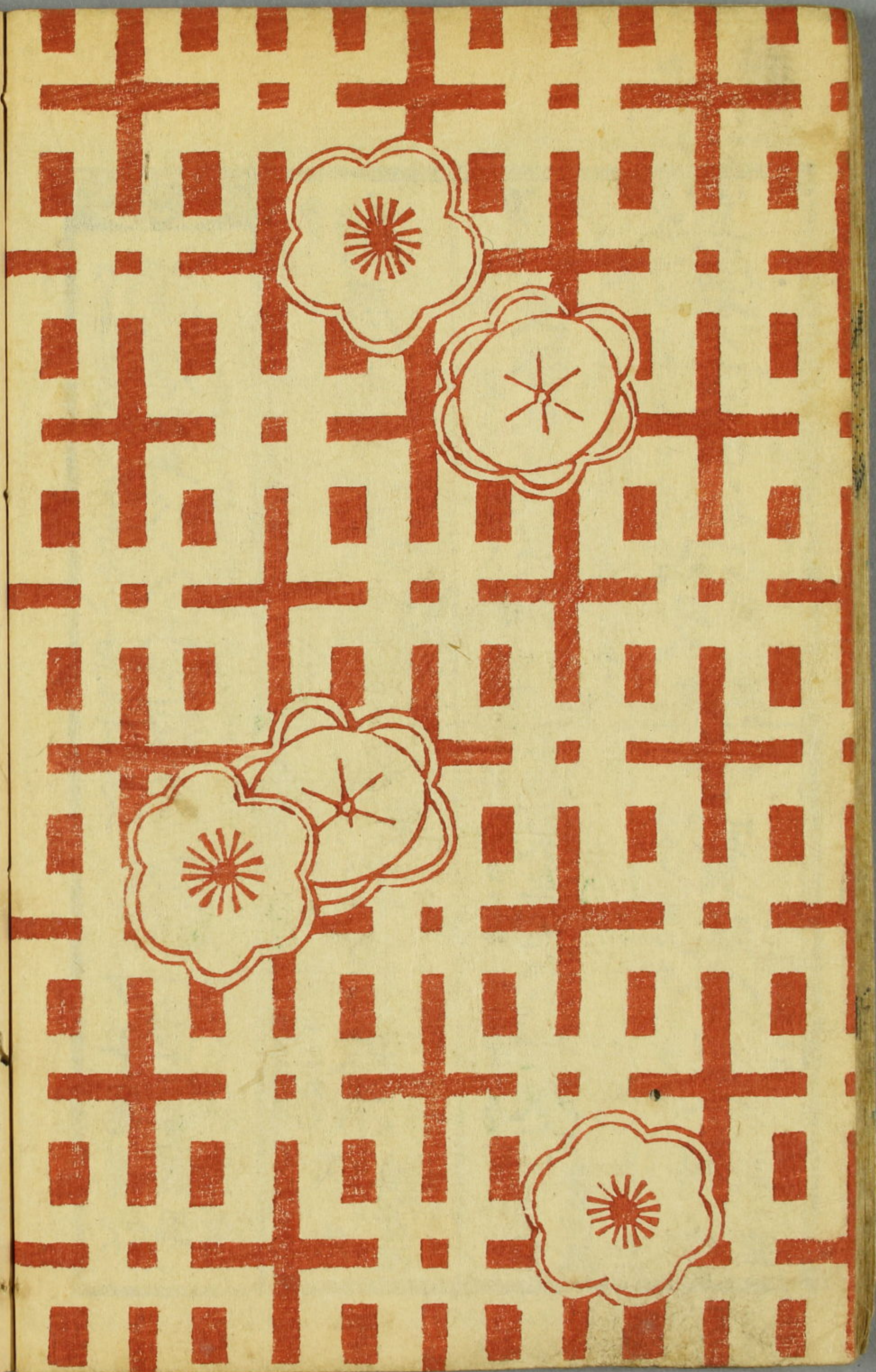
ぶひがらうとらうせすびろく  
**武家奉公出世双六**  
 同作  
 豊國画

あぐらうとらうせすびろく  
**奥奉公出世双六**  
 同作  
 同画

こがらうとらうせすびろく  
**子寶延命袋**  
 同作  
 同画  
 紅摺全一冊



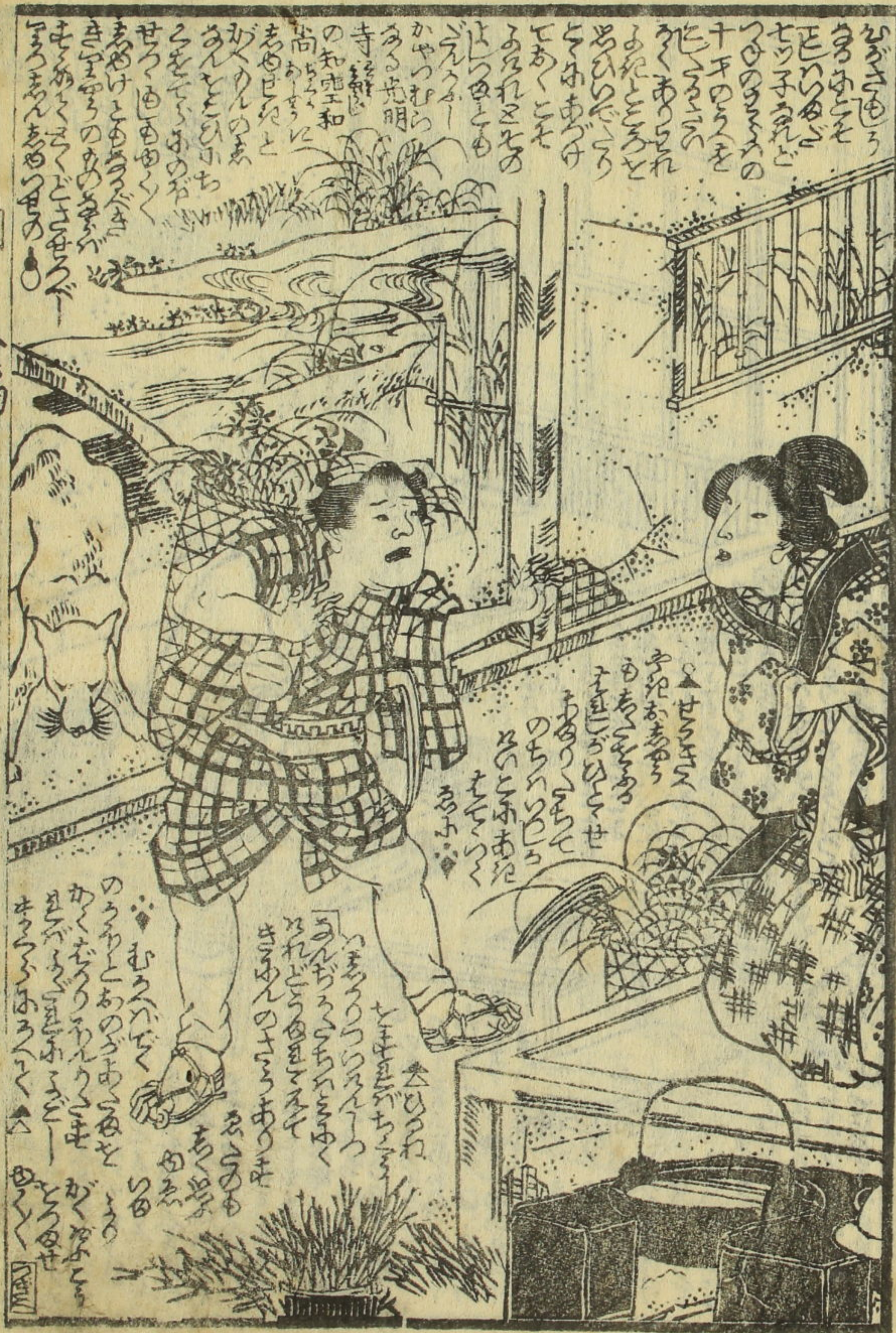
明日二編











寺の光明  
 のおと王和  
 尚かすに  
 ちかひのま  
 りんととひりち  
 るをてふゆのち  
 せつしゆゆゆ  
 まあけともあつた  
 ちまのちのあつた  
 まつてととととと  
 まつてととととと

朝日二編

一四



つたの死と  
 ちかひのま  
 りんととひりち  
 るをてふゆのち  
 せつしゆゆゆ  
 まあけともあつた  
 ちまのちのあつた  
 まつてととととと  
 まつてととととと

つたの死と  
 ちかひのま  
 りんととひりち  
 るをてふゆのち  
 せつしゆゆゆ  
 まあけともあつた  
 ちまのちのあつた  
 まつてととととと  
 まつてととととと

つたの死と  
 ちかひのま  
 りんととひりち  
 るをてふゆのち  
 せつしゆゆゆ  
 まあけともあつた  
 ちまのちのあつた  
 まつてととととと  
 まつてととととと

つたの死と  
 ちかひのま  
 りんととひりち  
 るをてふゆのち  
 せつしゆゆゆ  
 まあけともあつた  
 ちまのちのあつた  
 まつてととととと  
 まつてととととと

つたの死と  
 ちかひのま  
 りんととひりち  
 るをてふゆのち  
 せつしゆゆゆ  
 まあけともあつた  
 ちまのちのあつた  
 まつてととととと  
 まつてととととと

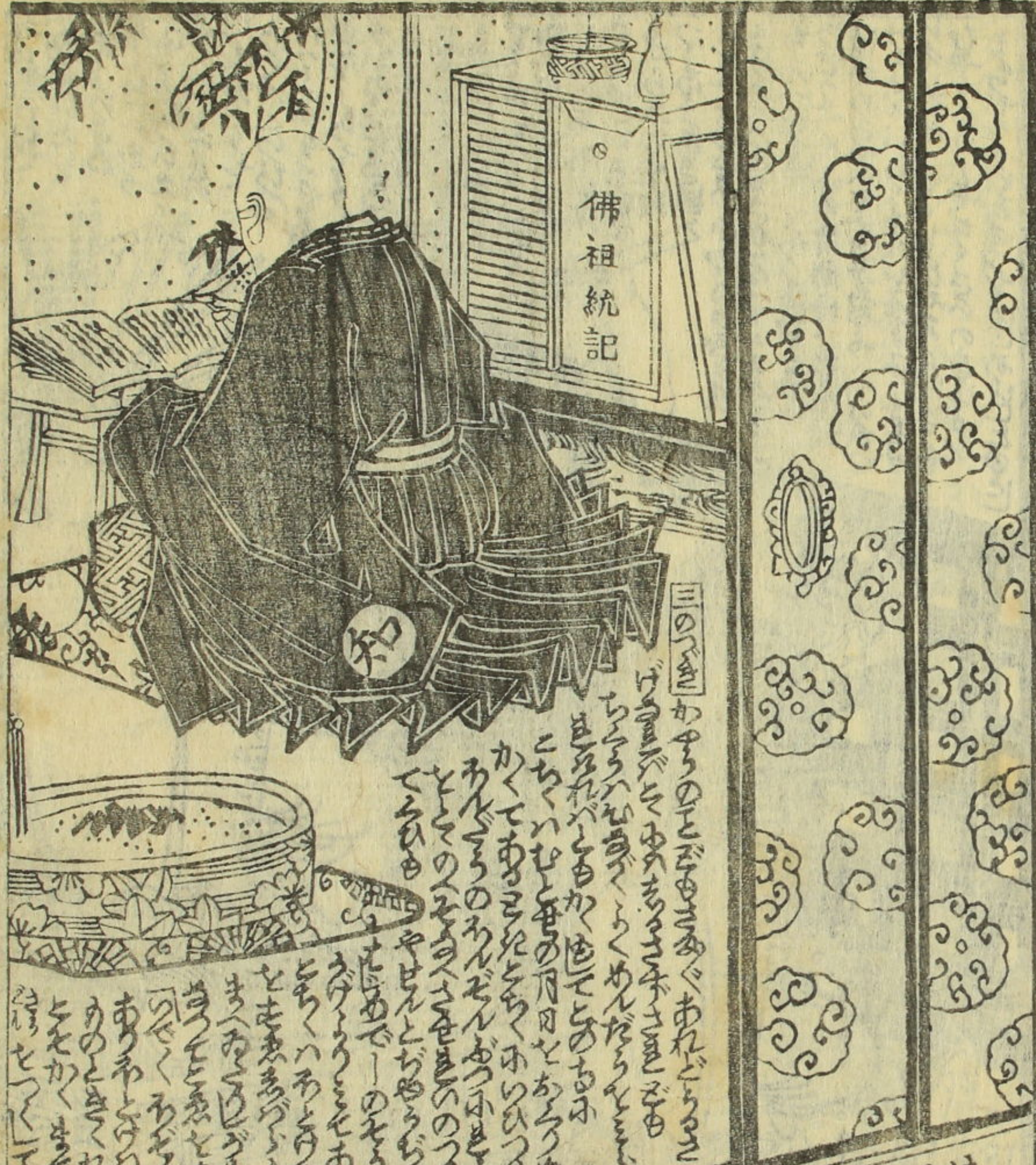
一三



朝  
 前用  
 此の書は...  
 月日二編  
 一五



めいそう  
 ちんねん  
 むらさき  
 ひろあつと  
 とびあ  
 のを  
 ちんねん  
 かく  
 ちんねん  
 あつと  
 むらさき  
 ひろあつと  
 とびあ  
 のを  
 ちんねん  
 かく



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a commentary or a letter related to the monk's activities. The text is written in a cursive style.

月田一編

Handwritten Japanese text in vertical columns at the top of the right page, positioned above the illustration of the woman.



Handwritten Japanese text in vertical columns at the bottom of the right page, positioned below the illustration of the woman.

月田一編







上

中

夫の事を知りては、  
 泣き死にたもうべしと  
 思ひ申されしが、  
 此の如きは、  
 世に傳へば、  
 名が汚るゝ事なり  
 故に秘して、  
 己の心に  
 留め置かれり



上

十四日、  
 此の如きは、  
 世に傳へば、  
 名が汚るゝ事なり  
 故に秘して、  
 己の心に  
 留め置かれり

火

夫の事を知りては、  
 泣き死にたもうべしと  
 思ひ申されしが、  
 此の如きは、  
 世に傳へば、  
 名が汚るゝ事なり  
 故に秘して、  
 己の心に  
 留め置かれり

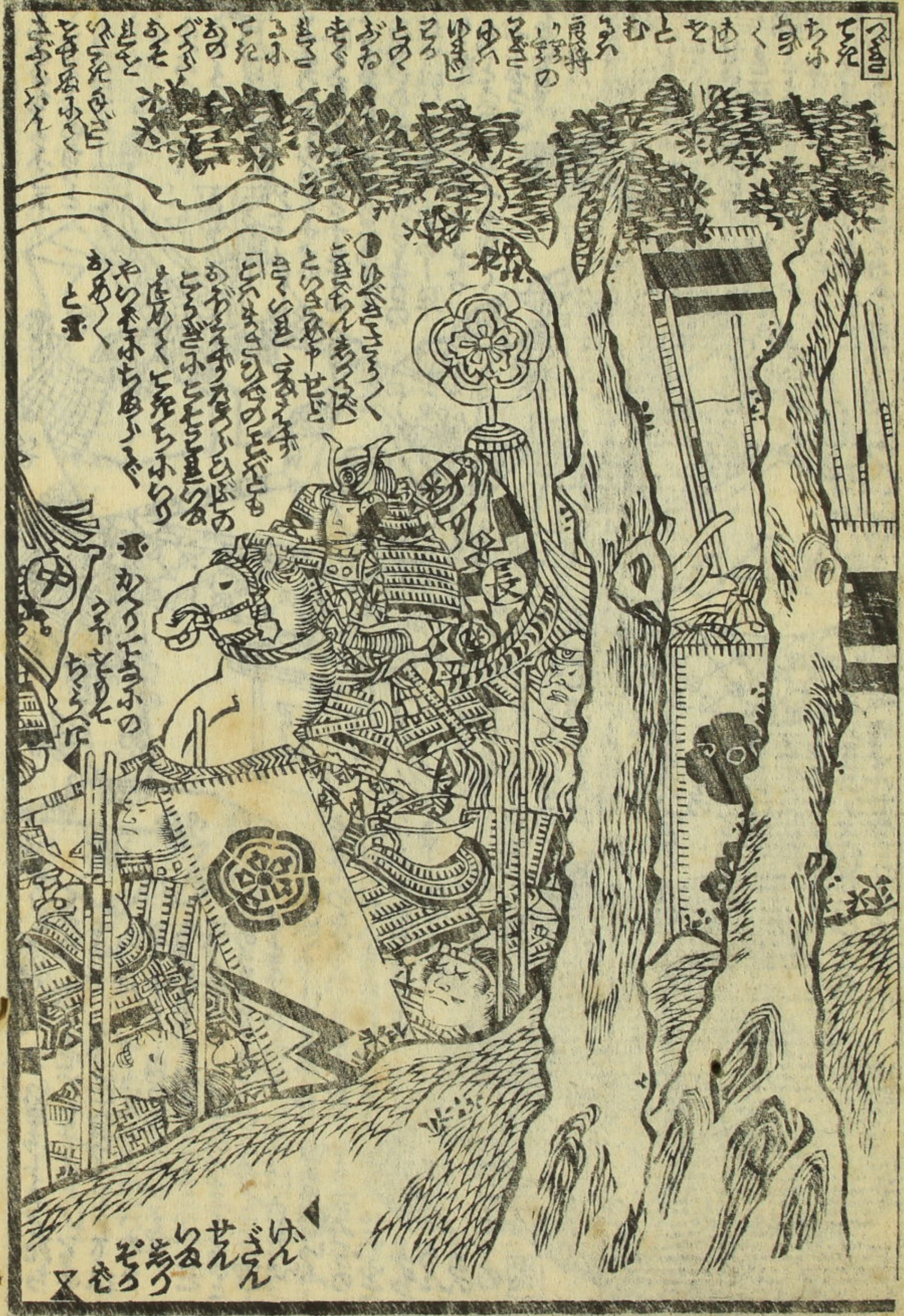


明日二編

あつちの  
おのの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの



朝日二編

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの  
あつちの

元治二年乙丑春新出版目録

倭文庫

五十二編 万亭應賀作  
五十三編 五十四編 一壽齋國貞画

新編朝日譚

初編 柳亭種彦作  
五編 一惠齋芳幾画

為永春水作  
重井菱染別小紋 八編 大尾

歌川豊國画

十返舎一九作  
沙雪みゆあ 五編 大尾

同画

常磐津懷中本

初編 二編 小本 ありて付  
三編 四編 ありて付 上巻あり

重繪草紙本類問屋

人形町 上州屋重藏板

柳亭種彦述 朝霞段樓上方幾画



備書



